



2026年2月12日

各 位

会 社 名 ソースネクスト株式会社
代 表 者 代表取締役社長 兼 COO 小嶋 智彰
(コード番号 4344 東証プライム)
問 合 せ 先 取締役兼 CFO 青山 文彦
電 話 番 号 0 3 - 5 7 9 7 - 7 1 6 5

特別損失、営業外収益の計上、 並びに連結業績の前期実績との差異に関するお知らせ

ソースネクスト株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長 兼 COO:小嶋 智彰)は、2025年12月期決算(2025年4月1日～2025年12月31日)におきまして、特別損失を計上することといたしましたので、下記の通りお知らせいたします。また、前期実績との差異につき、合わせてご案内いたします。

記

1. 特別損失の計上について

(1)ソフトウェアに関する減損損失の計上について(連結)

ポケット株式会社(以下、ポケット社)において、2025年12月末時点の業績推移を鑑み、将来の収益性を保守的に再見積りした結果、固定資産の減損損失を計上することといたしました。

開発した当初の想定から比較し、収益化の時期が遅れております。これを受け、当社は事業計画を慎重に見直すとともに、将来の利益成長を優先した財務基盤の健全化を行ないます。2025年12月期において12億9百万円を特別損失として計上いたします。これは現金の支出を伴わない非資金損益であり、ポケット社の資金繰りや事業継続に支障はありません。引き続き、当社の競争優位性をなすソフトウェアとして利用してまいります。

今後は、米国における教育分野以外の販路拡大や「ポケット X」等の新製品投入により、成長軌道を実実に捉えてまいります。今回の処理により次期以降の償却負担が大幅に軽減されるため、早期の収益改善および黒字化に向けた最適な収益構造へと転換いたします。

(2)ロゼッタストーンに関する減損損失の計上について(連結・個別)

当社は、2017年4月にロゼッタストーン・ジャパン株式会社の全株式および日本国内における商標権・独占的販売権等を取得し事業を推進してまいりました。しかしながら、2021年の米ロゼッタストーン本社買収に伴い、新親会社であるIXL社より日本事業の買戻し打診を受けたことを契機に、当該事業の将来収益性を再検討いたしました。

その結果、当社としても、今後AI分野へ経営資源を重点的に投入するため、事業ポートフォリオの整理および資産効率の向上を図る目的で、本件の権利譲渡を決定いたしました。これに伴い、帳簿価額を売却額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上することといたしました。2025年12月期連結決算において減損損失4億8百万円を、単体決算において4億60百万円を特別損失に計上いたしました。

2. 営業外収益の計上について

2025年12月期において、為替差益として1億60百万円を営業外収益に計上いたしました。これは主として、当社グループが保有する外貨建預金の期末為替レートによる評価に伴い発生したものであります。

3. 業績に与える影響について

上記いずれも本日公表の「2025年12月期決算短信〔日本基準〕(連結)」に反映しております。

4. 連結業績の前期実績との差異について

(1) 2025 年 12 月期の連結業績と前期および実績との差異

	売 上 高 (百 万 円)	営 業 利 益 (百 万 円)	経 常 利 益 (百 万 円)	親 会 社 株 主 に 帰 属 する 当 期 純 利 益 (百 万 円)	1 株 あ た り 当 期 純 利 益 (円 銭)
前期実績値(A)	11,455	△3,480	△3,925	△3,896	△28.65
調整後前年同期値(B)	8,650	△2,143	△2,148	△1,919	△14.15
当期実績値(C)	9,274	△1,308	△1,243	△2,128	△15.39
増減額(C-B)	624	835	905	△209	-
増減率(%)	7.2	-	-	-	-

(2) 差異が生じた理由

当社の決算期(事業年度の末日)は、2025 年6月 20 日に開催した定時株主総会での決議をもって、毎年3 月 31 日から12 月 31 日に変更となりました。決算期変更の経過期間となる当連結会計年度(2025 年 12 月期)につきましては、ソースネクスト株式会社並びに関係会社において、2025 年4月1日から12 月 31 日までの9か 月間を連結対象期間とした変則決算となっています。このため、参考値として、当連結会計年度と同一期間と なるように組み替えた前年同期(以下「調整後前年同期」)による比較情報を記載しています。

当連結会計期間の売上高は 92 億 74 百万円(調整後前年同期比 7.2%増)となりました。Windows11 への 移行需要の取り込みによるソフトウェア製品の伸長や、「筆ぐるめ」「Oura Ring 4」など新製品の取り扱い拡大が 寄与し、売上総利益は拡大しました。販売費及び一般管理費につきましては、グループ全体で固定費を見直 した結果、当連結会計期間の営業損失は 13 億8百万円(調整後前年同期営業損失 21 億 43 百万円)、経常 損失は 12 億 43 百万円(調整後前年同期経常損失 21 億 48 百万円)となりました。

ソフトウェア及び契約関連無形固定資産等の減損損失を計上した結果、税金等調整前当期純損失は 28 億 50 百万円(調整後前年同期税金等調整前当期純損失 20 億 65 百万円)となりました。また、非支配株主に帰 属する当期純損失7億 27 百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純損失は 21 億 28 百万円(調 整後前年同期親会社株主に帰属する当期純損失 19 億 19 百万円)となり、損失額は拡大しましたが、収益性 の改善が順調に進んでいます。

以上